



TAKE OFF press

TAKEO Future Frontier

【校是】質実剛健 報恩感謝

佐賀県立武雄高等学校

校長通信 NO. 10 R6. 08. 15

文責 校長 下村 昌弘

E-Mail shimomura-masahiro@education.saga.jp



学校 HP

夏は少し気分を変えて ー夏のフリーウェアデイ実施ー

夏季補習のうちの4日間、私服登校を可としました。皆さんいかがでしたか。

3年生にとっては飛び石になる煩雑さもあつてか、そこまで私服登校の姿は多くなかったかもしれませんが、初日から1・2年生は各クラス10名前後が私服姿で授業を受けていました。

アンケートは別途実施しますが、「めっちゃよかったですよ」「いい気分転換になりました」「部T神（部活のTシャツめっちゃいい）」という声を聴きました。先生たちの間でもラフな姿が見受けられました。



実施に当たっては主体性という趣旨・目的を掲げていました。ちょっと肩ぐるしく思ったかもしれませんが、それはそれでとても大切なことなのですが、暑い季節、ちょっと気分を変えて新鮮な気持ちになれたのではないのでしょうか。

もちろん制服組もこの期間は「なぜ自分は制服を着るのか」をいやがおうにも考えさせられたのではないかと思います。そう、つまりは“思考”が大事なんですね。



勉強も単なる“作業”にとどまって“思考停止”なんてことにはならないように。

人生はノーサイン ー弘前学院聖愛高校野球部の話ー

昨今は主体性が重んじられ、部活動でも髪型や練習メニューなど部員の自主的な判断で決めていくケースをよく聞きます。

青森県の弘前聖愛高校の野球部もその一つ。夏の甲子園を目指す県大会の決勝でノーサインで試合が進められたそうです。ただ、初めから部員に丸投げされているわけではなく、ゲームプランを練りに練り、試合中も絶えず監督と打合せをしているとのこと。その点、タネも仕掛けもあるわけですが、瞬間瞬間は選手たちが一人での動き、得点していく様はまさに“マジック”。



「人の指示でしか動けない人間は今後社会で通用しない」。こんな考えが根底にあるようです。ノーサインを始めた時「聖愛は勝つのを諦めた」と言われたそうです。しかし、徐々に力をつけ甲子園にも出場し、この夏の県大会も決勝まで駒を進めています。

これには裏話があって、その県大会決勝では9回、不運にも同点打と思われた打球が外野フェンスに挟まり、同点ランナーが3塁に留め置かれ、そのまま試合終了。

閉会式の行進では、選手たちは無念さを隠し、帽子を手にとって応援席と大会関係者に感謝を伝えました。終わってから監督が主将に尋ねたそうです。「もし勝っていたらどうしてた?」。主将曰く「相手の気持ちを考え、何もせずに行進したと思います」。

なるほど。ここには自分で考える野球の一つの結実があるように思えました。

探究心とは ータモリさんのような大人にー

2008年に始まったNHK『ブラタモリ』も、今年の3月、パイロット版も合わせて321回の放送が終わってしまいました。

毎回見ていたわけではありませんが、佐賀も18年に有田町が、23年には佐賀市と神崎市が取り上げられ、それは食い入るように見たものです。

この番組は、街歩きを趣味とするタモリさんが江戸時代・明治時代などの古地図を手に、実際に街を散策しその街に古くから残る建造物・神社・公園・坂道・通り・川・橋などを独自の視点で楽しみながら、現代の街並みに残る歴史の痕跡を発見するものでした。

街の変化のいきさつを空想・推測し、地理学・地質学的な側面を掘り下げ、その街のエピソードを探る。その場所の歴史を味わいつつ独自の視点・目線でユニークな街歩きを展開し、同時にタモリの独特の軽妙なトークも味わうという楽しさがありました。

タモリさんはおそらく番組を面白くしてやろうとか、評価されたいとか、外発的な動機ではなく、「分からないことを分かるようになりたい」と思っているような感じでした。それは内発的な探究心と言ってもいいのではないのでしょうか。頭の良い人だなと感じます。

実務のために学ぶ。受験のために学ぶ。そういう学びもありますが、そうだとっても自らの探究心を燃やし、ワクワクしながら学び続けられる人は素敵な人だなと感じます。

人と話をしていて、話題の取り上げ方とかちょっとした感想にその人の魅力を感じることがあります。たぶんそういう人は探究心が炭火のように、静かだけど核心部分が燃え続けている人なのでしょう。そんな大人に私もなりたい。(もうずいぶん大人ですが…)

弓道部女子団体 堂々の3位 ー技能優秀校が花を添えるー

8月3日～6日、島原市で開催された北部九州総体弓道競技で女子団体(荒川花歩・古賀由夏・川野真央・山下絢未・野中理加・江頭加笑：敬称略)が堂々の3位入賞を果たしました。



予選と決勝トーナメント戦の序盤はなかなか的中が伸びませんでしたが、これまでの試合経験が功を奏し、以降、接戦をことごとく制し勝ち上がりました。最終日の準々決勝。地元開催で勢いに乗る島原高校を16中対13中で制し、ベスト4。井手監督は「どういう結果になっても順位決定戦までである。前の試合を引きずらないように」とアドバイスを送り準決勝へ。相手の出雲高校は高的中で勝ち上がってきたチーム。

“同中か!”と思いきや、相手チームの的否が未判明の矢が的中しており、惜しくも敗退。

しかし、その直後の3位決定戦では10射10中、まさに全員で勝ち取った3位でした。

また、出場校1校だけに贈られる技能優秀校も受賞。3位に花を添えてくれました。これまでの長い道のりに敬意を表します。ご苦労様。感動をありがとう。

(閑人閑話) 8月2日、体験入学を実施した。二百六十名あまりの参加していただき、感謝。▼暑い中、今年は吹奏楽部の歓迎演奏に加えて全国2位の少林寺拳法部の演武を披露した。ナマの気迫に初めて見る中学生は圧倒されたのでは。▼重ねて韓国からの中学生を18人お招きした。本校生が6月にお世話になった全羅南道国際教育学院の企画する日本研修と日程があつたのでお立ち寄りいただいた。▼若者にとつてのひと夏の経験はきつと記憶に残る。かくいう自分も若い時期の夏の思い出はいまだに鮮明だ。▼高3、オーブンキャンパスなんかなかった時代。自力で鈍行列車を乗り継いで訪れた夏休み中の大学キャンパス。学生の姿も閑散としていたが、憧れが一気に身近なようにもなった。▼大学2年、は夏休みのひと月間バックパッカーとして中国を旅行。あの熱気は今なお忘れない。▼さて、今年の夏、君たちはどんな夏だったろう。何が記憶に残るのか。授業は始まるが、まだあと半月。丁寧に過ごしてほしい。(昌)

【当面の主な予定(8月後半)】
17日(土) 個別大学模試(3年) 全統記述模試
19日(月) 授業日スタート 東大生を囲む会
24日(土) 県一斉模試 (3年は25日まで)
30日(金) 始業式